

平成新山の成り立ち

仁田峠の 2 番目の展望所である。晴れた日には、遠くに平成新山の山頂（1,483 m）や島原半島を望める

1990 年の秋以前には平成新山は存在していなかった。この見晴らしの良い場所から、当時島原半島で最も高い普賢岳（1,359 m）と島原の町東方の低い山々を見ることが出来る。火山活動は 1990 年末に始まり、その後の 5 年間で溶岩ドームが形成されて崩壊し、高温ガス、灰、泥などの破壊的な雪崩が山腹を下っていった。

1991 年 6 月 3 日、火砕流が起こり、43 人が死亡し、2,000 軒以上の家屋が破壊された。噴火によるがれきは有明海まで達した。直後に撮影された写真は、絶え間ない噴火で破壊された風景を示している。

しかし、自然は回復力がある。これまでも同様の噴火があり、この噴火が雲仙火山にとって初めてのものではない。1998 年までに、平成新山は完全に安定し、その後の数十年間で山の生態系は急速に回復した。雲仙の植物は火山性の土の中でよく育ち、草木が真っ先に山腹に戻ってきた。噴火後 10 年以内には木が生え始めた。

ほとんどの人にとって、平成の噴火は記憶の中にしか残っておらず、地形が平らになり、多くの植物相が再生した今、残された荒廃はほとんど目に見えない。